

◆点検シート(新基準)

評価基準	1 理念・目的	点検単位	発達教育学研究科 教育学専攻
点検・評価年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 建学の精神、理念は、本学専攻における教育・研究・社会貢献の支柱として掲げられ、大学ウェブサイト、および『大学院要覧』に公表されている。 本専攻の特色や目指す姿は、人材養成・教育研究上の目的等の内容においてわかりやすく表現され、大学ウェブページ、『大学院要覧』に公表されている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 今後計画されているカリキュラム改革等の内容を踏まえて、専攻の特色や目指す姿を修正していく必要がある。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。 特筆すべき事項なし。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。 今後計画されているカリキュラム改革等の内容を踏まえた、専攻の特色や目指す姿に関する議論を進める。

② 大学の理念・目的及び学部・研究科等の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 大学ウェブサイト上の大学のページや教育学科の学習の手引には、「人材養成に関する目的」等の項目において、建学の精神や理念が明確に記述され、必要に応じた解説等が付されているが、大学院本専攻に関わるページや『大学院要覧』の内容には、明確な形で、それらの記述が見当たらない。 教育・研究・社会貢献の目的等の周知を促すための広報は実施されているが、上記のことから考えて、建学の精神や理念に関する周知は不十分であると推測される。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 大学院発達教育学研究科教育学専攻に関わるホームページや大学院要覧の「人材養成に関する目的」等の項目において、建学の精神や理念を明確にする必要がある。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。 特筆すべき事項なし。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。 大学院発達教育学研究科教育学専攻に関わるホームページや大学院要覧の「人材養成に関する目的」等の項目において、建学の精神や理念を明確に記述し、必要に応じて解説等を加えていく。

③ 大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた計画その他諸施策を設定しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 個別の視点での入力不要
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。 【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。 【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)

一般的なコメント(総評) 建学の精神や理念に関する周知について、問題点が的確に認識されている。
改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見

◆点検シート(新基準)

評価基準	4 教育課程・学習成果	点検単位	発達教育学研究科 教育学専攻
点検・評価 年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

本専攻においては、課程修了にあたって、学生が習得することが求められる知識、技能、態度等、教育学の学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針を適切に設定し、『大学院要覧』、大学ウェブサイトにて公表している。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

特記すべき事項なし。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特記すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

本専攻においては、学位授与方針との適切な連関性をもった、教育課程の体系、教育内容、構成する授業科目区分、授業形態等の教育課程の編成・実施方針を適切に設定し、『大学院要覧』、大学ウェブサイトにてわかりやすく明示し、公表している。履修オリエンテーション、個別相談等のサポートを行っている。教育目標、学位授与方針の編成・実施方針の適切性に関しては、毎年実施される大学院生アンケートにより検証しており、「大学院生アンケート」分析・検討ワーキンググループが結果を分析・検討している。さらに、発達教育学研究科教育学専攻会議が定期的に行われ、検討・改善のPDCAが実施されている。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

特記すべき事項なし。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特記すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成している。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

本専攻においては、教育学の理論的な学びを深化させるとともに、教科の学びを発展させることをめざし、カリキュラムを編成している。具体的には、1年次に教育哲学特論、教育方法学特論、教育行政学特論、比較・国際教育学特論、生涯教育学特論、教育社会学特論、学校教育学特論、家庭教育学特論をそれぞれ前期後期(AB)に配置し、教育諸科学の多岐にわたって学んだうえで、2年次になってそれぞれの専門性に合わせて演習AB、教育学課題研究ABを履修し、修士論文の完成に向けて学修を深めていくカリキュラムとなっている。1年次では教育学専攻の担当教員それぞれによるコースワーク、2年次には主査によるリサーチワークという学びの形が取られ、狭い専門領域にとらわれない学びの広がりや深まりが可能となっている。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特記すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 教育学の諸理論の学びに関しては履修者にとってもわかりやすいかたちでカリキュラム配置がなされているが、各教科の学びについて現状のカリキュラムでは学校教育学という名称になっており、少しわかりづらいという課題がみられる。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。 学校教育学特論という科目を教科教育学特論と名称を変更することで、履修者にとって学びの内容が認識しやすくなると考えられる。2019年度入学生のカリキュラムから、科目名称及びカリキュラム編成の改訂を行っていく予定である。

④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 本専攻のシラバスについては、全学統一の様式で、「到達目標」「授業の概要」「授業の計画」「評価方法」「授業時間外の学習について」「履修上の注意」「アクティブラーニングの区分」等の要件が明記され「大学ホームページ」で学内外に公表されており、学生が主体的に学習するように講義科目・演習科目の内容を設定している。また、少人数制を生かし、グループワークによるアクティブラーニングを取り入れるとともに、レポート等のフィードバックを行い、学生の主体的参加を促す教育方法へと改善に努めている。修士論文の作成にあたっては個別指導を行い、修士論文中間発表会を通して、指導教員以外の専攻の教員から多面的なアドバイスを得る場を設けている。学生の学習を活性化させ効果的な教育を行うためには、教育学と教科教育の融合により専門的能力を育成できるカリキュラムが必要であり、カリキュラム改革と関連させながら授業方法・内容について検討を行なった結果、これまでの教育学系中心のカリキュラムから教科教育系科目も取り入れた新しいカリキュラムへと学則を変更し、院生の多様なニーズに対応できる体制づくりを行った。学部授業の準備や後輩の指導補助を行うことにより、自らの学修到達度の確認と個別の学力や指導スキルの向上をサポートする仕組みとして、ティーチングアシスタントの制度を有効に活用している。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 本専攻のシラバスには、「評価方法」として成績評価の基準が明示されているとともに、修了要件についても大学院要覧に明示されており、適切な単位認定を行うための措置が講じられている。修士論文は、大学院要覧に記載されている学位授与の手続きにしたがい、指導教員(主査)および2名の副査による試問を行った後、学位授与の方針及び学位論文審査基準に基づく試問者による会議において合否案が作成され、その後、発達教育学部研究科委員会の議を経て合否の可否について審議される手続きをふんでおり、客観性がある適切な学位授与に努めている。また、責任体制も明確である。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 本専攻では、学生の学修成果を測定する評価指標として、学位授与率、修士論文の評価、就職決定率、博士後期課程進学者数等を重視している。2018年3月の博士前期課程卒業生2名の学位授与率・就職決定率は100%、博士後期課程進学者数は0名だった。修士論文に関しては、複数回にわたる中間発表会を経た上で提出に至り、その最終評価についても慎重に検討されており、学習成果は適切に把握及び評価されている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 本専攻の教育課程及びその内容、方法の適切性については、随時、専攻内の大学院担当者会議にて検証している。大学院生アンケートQ1「授業内容は、入学する前に期待していた通りであった」では、発達教育学研究科全体では、88.9%であり、高い満足度を示しているが、学部改組に合わせて実施される大学院のカリキュラム改革に向けて、ワーキンググループ設置等の体制を整えている段階である。その他、改善に結びつける取り組みとしては、全学のFD講演会、専攻内のFD研修会、学外のFD関連研修・交流会への個別参加等を通して行っているが、大学院の授業内容に特化した取り組みではない。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)

一般的なコメント(総評) 効果的な教育活動を行うためのカリキュラム編成について、課題が的確に認識され、改善に向けて適切な対応がなされていると評価できる。
改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見

◆点検シート(新基準)

評価基準	5 学生の受け入れ	点検単位	発達教育学研究科 教育学専攻
点検・評価年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 本専攻の学生の受け入れ方針は、大学ウェブサイトに明記されており、希望する者がすぐにアクセスできる体制が整えられている。また、教育方針についても同様である。教育目標及び学位授与の方針についても大学ウェブサイトに明記されている。これらの方針は、教育学専攻の担当教員によって毎年協議され、同意のもとに公表されている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 本専攻の学生受け入れ方針に基づき、本学発達教育学部教育学専攻より2018年度には2名の入学者が得られた。また2017年度には、他大学および本学他学部より入学希望者が得られ、さらに社会人入学希望者も得られた。結果として現在、7名の在籍生を得ている。これは、定員から見ると十分な数値とは言えないが、例年の状況に鑑みるかぎり、非常に好調と捉えることができる。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特記すべき事項なし。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。 本専攻において教科の学びをさらに深化させることが可能であるということを謳うことによって、さらなる志願者の増加を期することが可能であると考え。関西地区の教職大学院では、教科の学びを深めることは難しい状況であり、この点において本専攻の独自性が見出される。今後は、教育学の学びと教科の学びを両輪として深化させることができる大学院としての本専攻の特長を謳っていくことで、さらなる志願者を増やすとともに、高い専門性を備えた博士前期課程修了生を輩出することによって、社会に貢献していくことをめざすものである。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 本専攻では、学生募集方法、入学者選抜方法は募集要項に明記されており、その方法を遵守して募集・選抜を行っている。学力考査と面接によって公正に選抜を行っている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき、適正に管理しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 ※個別の視点での記入は不要です。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。 【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。 【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 本専攻では、学生募集および入学者選抜については、研究科委員会にて審議・承認を得るという手続きをとっている。また、学生募集と入学者選抜の在り方については、本専攻が掲げる学生の受け入れ方針に基づき、入試制度委員会、入試本部委員会で定期的に検討されており、検討結果については適宜大学院専攻会議に報告され、必要に応じて審議している。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。 【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特記すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特記すべき事項なし。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。 【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)

一般的なコメント(総評) 近年の学生募集は好調であるが、さらにカリキュラム改定を行っており、今後の学生募集にも期待される。
改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見

◆点検シート(新基準)

評価基準	6 教員・教員組織	点検単位	発達教育学研究科 教育学専攻
点検・評価年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 本専攻では、教育課程および研究対象領域を踏まえて教員組織の編制方針を定め、教員人事(採用・昇格)に当たっている。具体的には、専攻の人事事項調整の会議で検討し、専攻会議で策定した公募採用人事案を、全学の人事委員会にて提案し、審議・了承を得ている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特記すべき事項なし
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 教員組織の編制方針について、対外的に明示できていないため、整理して明文化する。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。 教員組織の編制方針を明文化する。

② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 本専攻の平成29(2017)年度における教員数は9名、年齢構成は60代3名、50代4名、40代2名で、男女比は男性7/女性2、教授5名、准教授4名、という構成である。専攻としてのカリキュラム・ポリシーを踏まえ、「原理系」「実践系」で構成される教育課程・開講科目に対し、教育哲学、教育方法学、教育行政学、教育社会学、比較国際教育学、生涯教育論、家庭教育学、学校教育学、等を研究分野とする教員を配置しており、担当科目と各研究分野がほぼ整合するものとなっている。教員組織とそれぞれの研究分野については、『大学院案内』や大学ウェブサイト公表されている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特記すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 今後、予定されている大学院カリキュラムの変更に応じ、適切な教員組織を編制していく。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

③ 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 本専攻の教員の募集・採用・昇格に関しては、「京都女子大学教員資格審査規程」および「内規」に基準が明文化されており、これらに則って教員人事の審査がなされている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 本研究科においては、教員の募集・採用・昇格に関して「京都女子大学教員資格審査規程」および「内規」に則って適切かつ透明な手続きにより、教員人事の審査がなされていると評価できる。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

④ 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 本専攻では、教員の教育面での資質向上のために、全学および学科独自で実施されるFD研修への参加を積極的に奨励しており、授業公開と参観についても、研究科委員会等で積極的関与を促している。教育活動(授業の分かりやすさ、履修指導、学生の意見のフィードバック等)に対する学生の満足度については、「大学院生アンケート」や「学生生活実態調査」を基に、専攻内FD活動として学部の教育学専攻との共同で検証している。・教員の研究活動については、教員業績データベースへの入力を教授会等で促している。・平成28(2016)年度からは「京都女子大学教員業績評価に関する規程」に基づき、前年度業績の評価を行い、学部長・学長による評価を受けて改善活動等に取り組んでいる。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 現状説明に挙げたように、本専攻としては学部の専攻とともに独自のFD活動に取り組んでおり、基準を満たしている。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 本専攻では、毎年度実施する自己点検・評価のほか、カリキュラム検討等に合わせて教員組織の適切性について点検・評価を行っている。2017年度においては、教員養成の高度化を見据え、旧来の教育学諸領域の研究・教育に加え、教科教育学の分野についてのカリキュラムも充実させる方向で、カリキュラムの検討を行い、一定の成案を見たところである。そこで、このカリキュラムに適切な教員組織の検討、一部実施を行った。今後の課題としては、このカリキュラム及び教員組織について、発達教育学研究科の本専攻以外の専攻との調整が必要である。 加えて、発達教育学部の学部改組を行い、2019年度より発達教育学部教育学科に養護・福祉教育学専攻が新たに加わる予定である。この専攻も交えた発達教育学研究科の発展方策及びその教員組織についての検討も今後必要である。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 教員養成の高度化を見据え、旧来の教育学諸領域の研究・教育に加え、教科教育学の分野についてのカリキュラムも充実させる方向で、カリキュラムの検討を行い、教員組織についてもそのカリキュラムに即応した組織改善を一部行ったところである。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 上記カリキュラム及び教員組織の改善について、発達教育学研究科の本専攻以外の専攻との調整が必要である。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。 発達教育学部の学部改組を行い、2019年度より発達教育学部教育学科に養護・福祉教育学専攻が新たに加わる予定である。今後、この専攻も交えた発達教育学研究科の発展方策及びその教員組織について検討する予定である。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)

一般的なコメント(総評)

教員養成の高度化を見据え、大学院カリキュラムの変更に取り組み、それに応じた適切な教員組織の編制が検討されている。加えて、学部改組に伴っての、カリキュラム及び教員組織の改善についても今後検討される予定である。

改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見